

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3165381号
(U3165381)

(45) 発行日 平成23年1月20日 (2011. 1. 20)

(24) 登録日 平成22年12月22日 (2010. 12. 22)

(51) Int.Cl.

B 2 6 B 9/00 (2006.01)

F 1

B 2 6 B 9/00

A

評価書の請求 未請求 請求項の数 1 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 実願2010-7397 (U2010-7397)
(22) 出願日 平成22年9月29日 (2010. 9. 29)

(73) 実用新案権者 307007638
田辺 昭
新潟県新潟市西蒲区漆山2 6 2 1 番地
(72) 考案者 田辺 昭
新潟市西蒲区漆山2 6 2 1 番地

(54) 【考案の名称】 包丁

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】野菜、果物等の凹部の下処理をスムーズにできる包丁を提供する。

【解決手段】包丁の刃板基端部に凹状部を設け、刃板基端に掘出し突出角部を形成し、この掘出し突出角部の凹状部と隣設する辺縁部は刃縁となっている。

【選択図】図1



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

刃板の刃縁の基端部に凹状部を設けて、刃板の刃縁基端に掘出し突出角部を形成し、この掘出し突出角部の前記凹状部と隣接する辺縁部は刃縁とする事の特徴とする包丁。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は野菜、果物等の凹部の下処理がしやすい包丁に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

野菜、果物等の下処理の際凹部の処理が一般の包丁ではやりにくい面があった。

10

【考案の概要】**【考案が解決しようとする課題】****【0003】**

一般的に野菜、果物等の下処理作業は包丁とピーラーを用いるわけであるが、野菜、果物等の凹部分の処理はやりにくい面があった。従ってこれらのやりにくさを解決するための包丁を提案するものである。

【課題を解決するための手段】**【0004】**

本考案は包丁の刃板の基端部に凹状部を設けて刃板の刃縁基端に掘出し突出角部を形成しこの掘出し突出角部の凹状部と隣設する辺縁部を刃縁とする事により野菜、果物等の下処理作業をやりにやすくする事ができ、上記の問題点を解決することができる。

20

【考案の効果】**【0005】**

上記のように野菜、果物等の下処理の際凹部分の処理は包丁の刃板の基端部の凹状部と掘出し突出角部を使用することにより現在の包丁よりもやりにやすく、スムーズに行なうことができる。

【図面の簡単な説明】**【0006】**

【図 1】本考案の包丁の全体図である。

30

【考案を実施するための形態】**【0007】**

包丁の刃板の基端部に凹状部を設けて刃板の刃縁基端に掘出し突出角部を形成し、この掘出し突出角部の凹状部と隣設する辺縁部は刃縁となっているものである。

【実施例】**【0008】**

以下添付図面に従って実施例を説明する。

本考案の包丁は刃板の基端部に凹状部があり刃板の刃縁基端に掘出し突出角部を形成しているため又この掘出し突出部の凹状部と隣設する辺縁部は刃縁となっているため野菜、果物等の凹部分の下処理をする場合図 1 の C、D の部分を使ってスムーズに皮等を処理することができる。

40

【符号の説明】**【0009】**

- A 包丁本体
- B 包丁の刃板部分
- C 包丁の刃板基端部の凹部分
- D 包丁の刃板の刃縁基端の掘出し突出角部分

【図 1】

